

病気リスクを、遺伝子検診で評価 病気の予防に積極利用

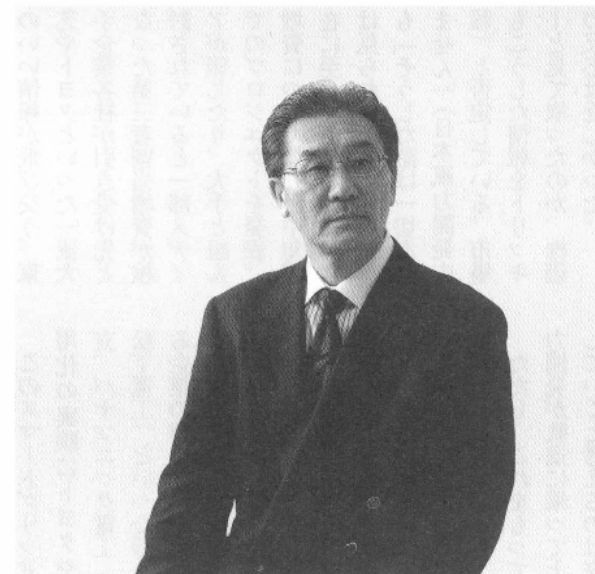
血液や唾液、頬の粘膜などからDNAを採取、解析することで、将来の病
気リスクを評価できる。遺伝子検査。その遺伝子検査を病気の予防に積極
的に役立ててもらおうとサービスマニファクト社が「メディファクト社」の
試みを紹介する。

がんリスクを 超早期に評価

医療技術の目覚ましい進展により、病気の原因となる数多くの遺伝子が特定されている。今日、遺伝子検診を通じて、将来的に自分がかかる病気のリスクを予測する

ことができるようになってきている。従来は、重い遺伝病（先天的な遺伝子の解析）などの場合に、病気の診断に使われていた遺伝子検診。これを遺伝子の、今の状態を把握することで病気のリスクを数値化し、がん、

生活習慣病などの予防に役立てる取り組みが進み話題を集めている。各種医療情報や関連サービスの提供を行う「株式会社メディファクト」（本社：東京都/以下メディファクト社）では、遺伝子検診を通じてがんや生活習慣病な



メディファクト社・山崎都中央会長

どの病気リスクの評価と、医師からの助言サービスなどをパッケージで提供する「遺伝子検診サービス」を提供している。病気のリスクを予測する遺伝子検査自体は、今日、インターネットなどでも手軽にできるようになっている。だが、その手軽さがアタとなることも少なくない。送られてきた検査結果を利用者は持て余し徒に不安を募らせるケースも少なくないという。的確な医療情報として遺伝子検査データ

を診断や治療に役立てるには、医師の助言や検診データの評価が不可欠となる。そこで同社では、遺伝子検査と医師の検診をパッケージ化したサービスを提供。遺伝子検査の項目については、さまざまなメニューを取り揃えられているが、同社が注力しているのが、がんリスクを評価できる遺伝子検診サービス。

最新の画像診断機器でも現代の医療技術で発見できるがんの大きさは5mm程度と言われている。五mm程度のがんでも、そこまで成長するには、約五〜二十年かかると言われており、早期発見・早期治療が謳われているがん治療においては、危険性は増大、がんとの苛酷な闘病リスクも高まる。

遺伝子検査では、血液中に遊離されるがんリスク遺伝子（がん遺伝子など）を解析。微細ながん細胞の存在リスクを、画像診断に比べれば超早期に把握でき、超早期の段階でがんリスクを把握できれば、治療の選択肢、その幅も広がる上、苛酷ながんとの闘病を回避できる可能性についてもそれだけ高くなる。

同社のサービスで提供されるがんの超早期リスク評価を凶る遺伝子検査は、後天的な要因（生活習慣、ストレス、加齢など）で変異するがん遺伝子を解析し、がんリスクを評価するもの。検査は依頼者の同意を得て、約20ml程度の採血後、ドクターによる説明を受け約四週間を経て、レポートにまとめられた検査結果を元に、医師との面談で検査結果などについて説明が行われるシステムだ。



遺伝子検査サービスを支える専門クリニック院長・武井医師（中央）と女性スタッフの皆さん

同社では、血液による遺伝子検査の他、頬の粘膜や唾液を採取し、肥満や骨粗しょう症、高血圧・高脂血症などの疾病に関連した遺伝子検査サービスを展開。海外双方で展開。こちらも前述した疾病に罹るリスク評価結果のレポートを元に、医師が助言や評価を行い、要薬があれば、同社提携の医療機関や専門医の紹介も行っている。（会員向けサービス）

頬の粘膜や唾液による遺伝子検診サービスについて、同社では現在、全国の街の歯科医をポータル（窓口）として、スムーズに遺伝子検査と医師による

検査結果説明が受けられるネットワーク化が進行中。東京、大阪、名古屋など主要都市を中心に血液によるがんリスク検診サービスを提携医療機関との協力の下、従来から進めていた同社だが、今後は、全国の歯科医ネットワークを充実させていくことで、遺伝子検診サービスをより身近な病気予防の医療メニューとして多くの人々に利用してもらえるよう拡充に努めていくという。